

【学術変革領域研究 (B)】

心情認知学：ダイナミックなこころの機微を理解し寄り添う社会の創成

研究代表者	京都大学・人と社会の未来研究院・准教授	
	上田 祥行 (うへだ よしゆき)	研究者番号：80582494
研究課題情報	課題番号：25B102	研究期間：2025年度～2027年度
	キーワード：こころの機微、異文化理解、生体信号、対話、死生観	

なぜこの研究を行おうと思ったのか (研究の背景・目的)

●研究の全体像

こころを豊かにする技術を創生するには、私たちが抱く多様なこころの状態を理解し、概念として扱える理論が必要である。これまで、表情、心拍、皮膚電位、脳波などの生体情報から、人のこころの状態を推定する試みがなされてきたが、この方法では私たちが日常で抱く複雑で繊細な想い (=こころの機微) を表すには十分ではない。例えば、日常では私たちは必ずしも一度に一つの感情のみが喚起されるわけではない (新しい仕事のオファーを受けて、喜びと不安が入り混じっていたり、親しい友人が成功すると、喜びと同時に少しの嫉妬も覚えるだろう) が、これまでの多くの研究では、ある時点のこころの状態を一意に定めようとしており、こころを過度に単純化してしまっていた。

本研究では、こころの状態の本質は、感情の複合であると考え (これを“心情”と定義する)。これによって、ある時点の状態を一つの感情カテゴリに決定論的に帰着させる考えを改め、複数がその強弱を持って同時に存在していることを前提にし、それぞれの感情がどのように複合しているかを包括的に示す基盤理論を構築する。私たちは、生体情報にコンテキスト (文脈情報、場がどのような状況であるか) を加味してこころを理解しているはずであり、生体情報そのものは情動に関する複数の解釈可能性を持つ。主観や生理指標、コンテキスト、その解釈に関与する神経基盤を包括することで、私たちが多様なこころの機微を理解する営みを「心情認知学 (Psychosentience)」として体系化する。

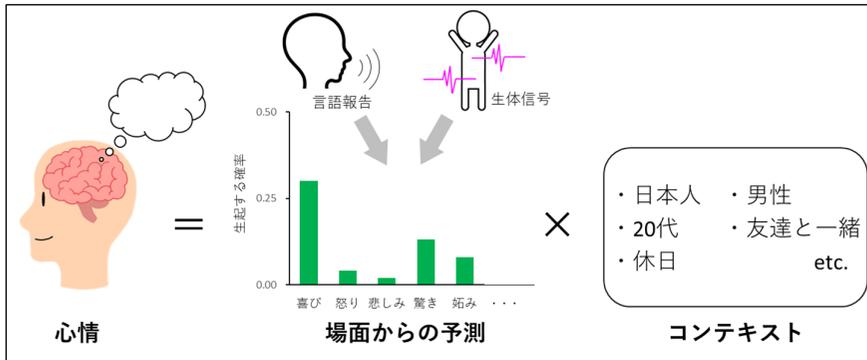


図1 本領域が提案する心情と個別感情、コンテキストの関係性

●本領域が挑む4つの問題

1. こころの状態を定義する (A01-心理班)

文化や経験、場の状態といったコンテキストと、生体情報および言語表現などを掛け合わせて、各心情をどのように定義するのがよいか。人間のこころを理解する基礎科学からAIシステムなどの人間をサポートするフロンティア技術による応用開発まで、分野横断的に心情を扱うための操作的定義を確立する。

2. こころの状態を知る (A02-計測基盤班)

心情と身体反応との対応をどのようにモデル化すればよいか。心情に関する身体反応や主観報告データを分析し、定量的に扱うための方法論を確立する。また、生体情報の信頼性を上げるために、簡便かつ頑健に生体情報を測定する技術についても同時に検討する。

3. 他者との交流で生じるこころの状態を探る (B01-対話班)

他者と一緒にいる場面では、一人の場面では生じない心情が生じることがある。こころの理解に関する研究を一人場面を前提としたものから、他者との対話の中で生じるものへと拡張する。

4. 日常の機微から死生観までを連続して扱う (C01-医療応用班)

日常のこころの動きと死や生に対する強いこころの動きは連続体であるにも関わらず、分断されて研究されており、これまでの研究では、これらを包括的に理解しようとしていない。包括的なこころの状態を捉える基盤を構築し、日常で感じる喜怒哀楽から死生に関わる強い想いまでを一つの連続体として扱う。

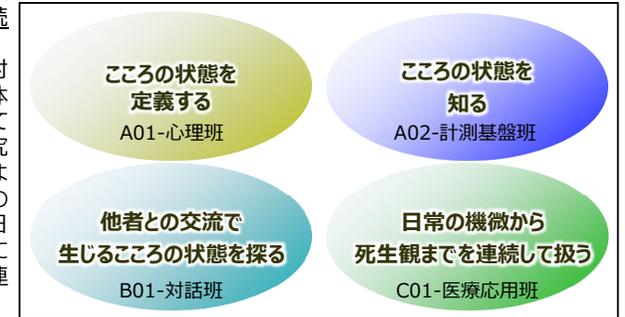


図2 本領域が挑む4つの問題

この研究によって何をどこまで明らかにしようとしているのか

●本領域の目指すもの

本領域では、今後行われるこころの理解に関する研究のすべての基盤となるべき考え方を示し、分野横断的に心情を扱うための操作的定義を確立する。

A01-心理班では、心情を喚起する刺激を収集し、心情喚起刺激セットとして関連分野の研究が今後使用できる基盤を構築する。また、その神経基盤や文化多様性についての知見を得て、基盤技術の裏付けや妥当性を検討する。

A02-計測基盤班では、心情と身体反応との対応を、1対多の曖昧性を持った確率的なモデルとして定量的に扱えるようにする。また、文章を予測できるよう学習された大規模言語モデルは、当該言語におけるコンテキストの一部を獲得していると考えられるため、これを用いて文化圏で育まれたコンテキストを工学的な測定と結びつける。

B01-対話班では、二者での対話後に、心情表現と最初の対話とを対応づけて「対話における心情に関するデータセット」を作成し、対話場面の心情を理解する。また、沈黙などの対話中に生じる要素が心情表現に与える影響を明らかにする。

C01-医療応用班では、うつやグループなどのケア・コミュニケーションで生じる心情を検討する。実際の医療カウンセリング場面を対象に、クライアントの発話や身体反応から、ケア場面特有の心情を体系化する。

全体を通じ、一人の場面から二者場面まで、日常のこころの機微から身近な人の生死にかかわるこころの動きまで、包括的に心情を捉えることのできる基盤理論の提示を目指す。

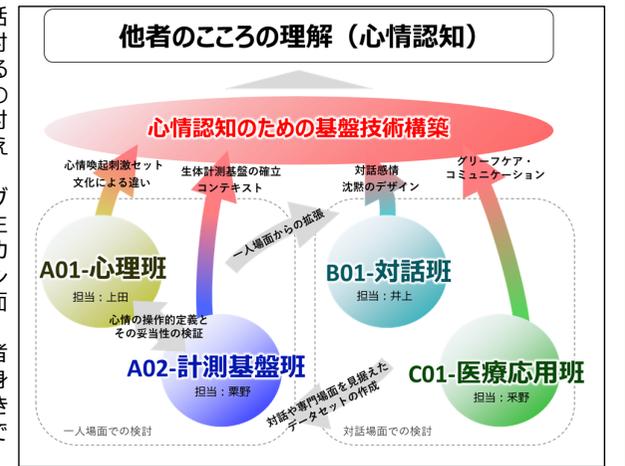


図3 研究領域及び各計画研究の役割とその関連性

ホームページ等	開設中
---------	-----